

全国都市再生モデル調査概要

1．応募団体名	社団法人 日本マリーナ・ビーチ協会 担当: 部長 中 井 清 連絡先: 電話番号 03-5566-1530 電子メール nakai@jmba.or.jp 特定非営利活動法人 シーユースクラブ銚子 担当者 理事長 宮 澤 宏 男 連絡先: 電話番号 090-3402-9189 電子メール seayouth@green.ocn.jp
2．調査名	平成15年度「全国都市再生モデル調査」 (マリーナを活用した人づくり街づくり調査)
3．推薦団体名	銚子市産業部産業振興課
4．調査の対象地域	銚子市
(1) 対象となる行政区域名、地区名等	銚子市(千葉県) 銚子マリーナ及びその周辺地域
(2) 対象となる行政区域及び地区の特徴	銚子市人口約8万人 銚子マリーナは臨海部に位置し、屏風ヶ浦や犬吠埼などの観光地に近接、後背地は緑地・商業用地で大学も平成16年に開校
5．提案した活動の内容	
(1) テーマ、課題	銚子マリーナ(第三セクター)は、直背後に来春大学の開校が予定され、また、周辺は海浜や磯等の豊かな自然環境に恵まれていることから、今後、この地域が市の地域交流や観光等街づくりの中心として発展していくことが期待されている。これまでも、市民の親水機会提供やヨットの世界レベルの大会などの開催を積極的に展開してきたが、マリーナ等公共施設の新たな活用や運営・管理等のあり方、施設間の有機的な連携、自然環境の活用、人材育成等の方策等について更に、幅広く検討していく必要がある。そのためには、行政はもとよりNPO等市民の参画や、普段交流の機会が少ない施設関係者、漁業関係者、学校関係者等幅広い方々の協力が不可欠であり、その合意形成の方法や手続きなどの課題を解決する必要がある。
(2) 本調査費による活動内容の概要(提案者の活動)	1．ワークショップ マリーナ等公共施設等の新たな活用・連携方策や人材育成方策を検討するために、市民、NPO、施設関係者・行政等からなるワークショップを設置した。 開催回数: 4回開催(平成15年10月31日～平成16年3月5日) 参加者: 平均約20人 委員: 市民代表→PTA・銚子商工会議所青年部、銚子青年会議所 NPO→NPOシーユースクラブ銚子 施設関係者→(株)銚子マリーナ、千葉県銚子土木事務所

漁業関係者→銚子市漁業協同組合(外川支所)

学校関係者→銚子市内の小学校長

大学関係者→銚子市文教のまちづくり推進室

行政関係者→銚子市産業部産業振興課、銚子市教育委員会

15 名

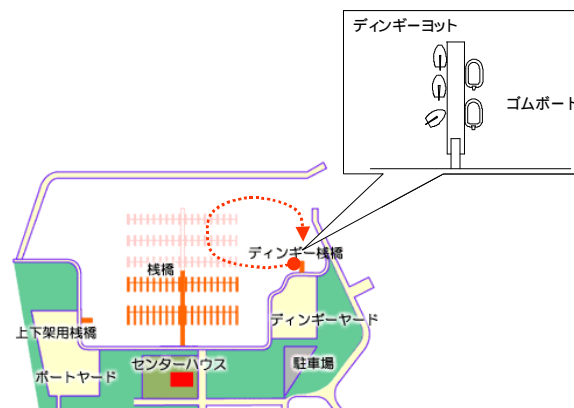
2 . 社会実験(平成 15 年 10 月 31 日実施)

銚子マリーナ及びその周辺で銚子マリーナ海辺の自然学校を実施、参加者のべ 92 名(児童 61 名、教員 3 名、指導員 28 名、看護師 1 名)が参加
記念撮影



ディンギーヨット体験(指導員 19 名)

ディンギーヨット体験での主な活動内容は、活動場所(ディンギーハウス)へ移動し、水着・ウェットスーツ・マリンブーツ・ライフジャケット・ヘルメットを着用し、海上でのヨット体験を実施した。



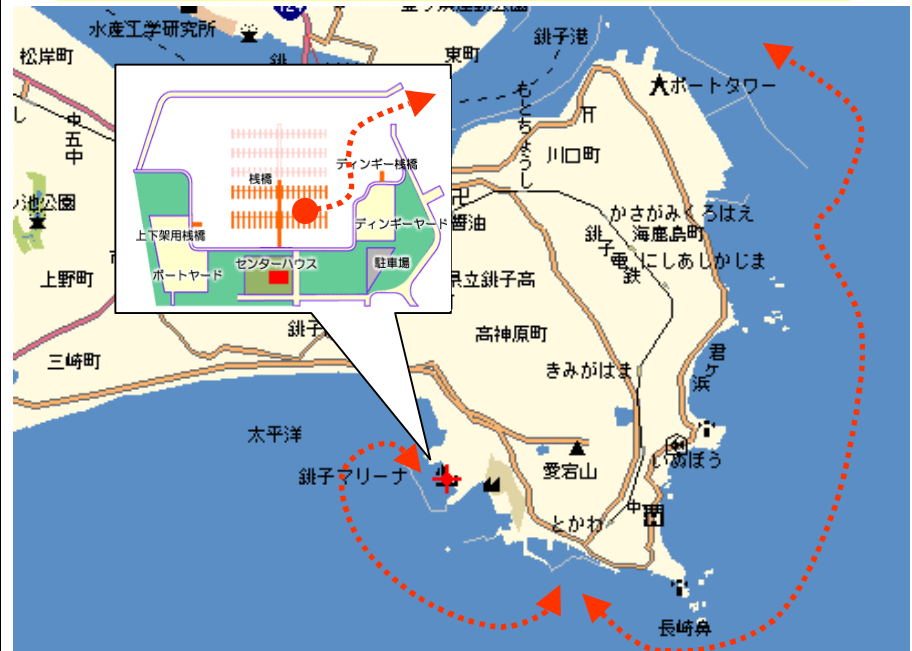
ディンギーヨットの操船体験 ゴムボート(レスキュー艇兼用)の乗船



モーターボート体験(指導員6名、内2名操縦士)

銚子マリーナ内の桟橋を発着場所とし、マリーナで保管するモーターボート2艇を使い、銚子マリーナから周辺海域(屏風が浦、犬吠崎)を1時間程度のクルージングを実施した。

銚子マリーナ(桟橋から発着)からのモーターボート体験コース



ビーチクリーンアップ(講師1名、アシスタント2名) 海岸に出たのフィールドワーク

銚子マリーナ周辺の名洗海岸にて、漂着物を収集し、それをマリーナに持ちかえって分類する。分類にはアメリカの海洋保護センターが作成したデータカードを使用し、これらの活動が世界的な活動である事も理解してもらった。

世界の海辺の生き物の現状紹介

ビーチクリーン



3. マニュアルの作成

銚子マリーナ海辺の自然学校等の演習成果をもとに、準備段階から実施までの手順・ツール等をマニュアル化

6．本調査と関連する活動実績（提案者とは別主体の活動）	海の環境をテーマにした野外学習（自由研究） 平成 15 年 12 月に実施された銚子市小中学校校長会での銚子マリーナ海辺の自然学校の結果報告を受けて、新たに銚子市立豊岡小学校からマリーナに問い合わせがあり、海の環境をテーマにした野外学習（自由研究）を平成 16 年 3 月 8 日に、23 人の児童を 3 班に分け、銚子マリーナからモーターボートに乗船し、海の透明度、浮遊物（ゴミ）等の調査を実施した。 オリエンテーション 海の環境をテーマにした野外学習（自由研究）   銚子マリーナを会場に実施されたまちづくりに関連するイベント 平成 15 年 7 月 20 日（日）に銚子市漁協外川支所が企画運営するきんめだい祭りが銚子マリーナを会場として開催された。 銚子産水産物直売、料理コーナー 種苗放流、資源管理 PR（きんめ教室） などを実施  平成 15 年 10 月 26 日（日）に第 11 回銚子市産業まつりが銚子マリーナを会場として開催され、約 3 万 3 千人の来場者があった。（実施本部発表）  
7．本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など	公共施設等の活用を核としてまちづくり等に関しワークショップを開催した結果、マリーナ等の公共施設には従来のマリーナ業務に加えて一般市民等への利用に供する取組を図ることで地域の様々な活動の拠点として有効活動出来る潜在力を秘めていることが確認出来た。 また、社会実験として「海辺の自然学校」を開催した結果、学校教育の一環や、地域イベントとして今後活動を拡大していくためには、学校・保護者、関係者への十分な内容説明を行い理解・同意を得た上で実施を行う等、イベント実施以前の事前準備も重要であることが確認された。